

中核派大政治集会に結集せよ

十一月佐藤訪米実力阻止

マルクス主義学生同盟・中核派

全部の闘う学友諸君！

十月非常体制突破・佐藤訪米阻止、中核派大政治集会への総結集を呼びかける。

全く行きつまった沖縄交渉

佐藤内閣は「七二年返還」を宣伝し、十二月解散を口にする事で自ら退路を断ち背水の陣を敷いた。当初一回の予定を二回にした愛知ロッキース会談の中で明白になった事は「七二年」に対する何らの成算もなくB52ベトナム発進の問題、核兵器の問題、基地自由使用の問題等々の解決が先に引き延ばされただけで、七二年までにベトナム戦争が終結し日本の警察国家への移行が完成するなら、七二年の時点で「返還」を考えようという程度の内容でしかない事である。「七二年」とは極めてベテラン的ツナワタリ的であり支払うあてのない空手形なのだ。

警察国家への移行が始まった

十月非常体制は全警察力奉げた反革命として、すでにその幕は切って落されている。佐藤内閣は、「七二年返還」の空手形を警察国家への移行で決算せんとしている。本土・沖縄の闘いをおしつぶし、死の沈黙の中で、沖縄をテコとした安保の実質的大改定を行う腹づもりなのだ。非常時体制が一年間継続する事は、統治形態の転換を意味している。議会制民主主義から警察国家へ、その画期とそ十月非常体制なのだ。

十一月決戦に起て

佐藤は政策実現の手段とし、機動隊万能主義以外にいかなる有効な手段も保持していない。この暴力支配を鉄の軍団の力をもって打ち破った時、日本階級闘争は佐藤内閣打倒から日本革命への広大な戦場を手にするだろう。

全学連中執滝沢紀昭君は、十一月決戦破壊の反革命的テロルによって虐殺された。滝沢君が果敢として果し得なかった十一月決戦の巨大な勝利のみが、彼の遺志を受けつぐ遺である。

全部の闘う学友諸君！中核派大政治集会に総結集し、十一月決戦勝利の万全の態勢を築き上げよう！

25日 中野公会堂 (国電・地下鉄中野駅) 午後六時

26日 豊島公会堂 (国電・豊島駅) 午後六時

あいさつ 全学連委員長・金山 克巳 沖縄闘争学生委員会 三里塚芝山連合空港反対同盟